

2024 年度:こども園自己評価の報告書

桜井谷こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・「しなやかな心と体で のびのびと遊べる子どものための環境づくり」をテーマに園内研究を進めた。「子どもが主体的に遊びたくなる」を意識し、子ども達の興味や関心から工夫したり発見したりできるよう遊びの環境を準備した。また園庭ではのびのびと身体を動かせるよう土山を作ったり自然物を準備したりするなどの環境を設定した。一人ずつ膝の上で絵本を読んでもらう『おひざえほん』の取り組みが定着し、大人と子どもがゆったり関わる時間を作ることが出来ている。玄関の絵本コーナーでは多文化やジェンダーも含め、テーマに沿った展示も積極的に行った。
健康支援	・看護師による「保健のはなし」をきっかけに、健康やからだについて興味をもって過ごしている。 ・感染症の発症については、配信アプリで発信し、受診の際にかかりつけ医に相談・対応しやすくしている。
安全指導・危機管理	・自由な発想と活動を保証するため、保育教諭が危険を予知できるように、定期的に危険が潜んでいないか確認し、危険な遊びについては気づいた時点で、改善できるよう話し合いを持つようにしていった。 ・いろいろな災害を想定した避難訓練を実施する中で、反省事項や検討課題について職員間で回覧を行い、意識向上を図ることができた。
食育の推進	・給食の玉ねぎの皮むきの経験や収穫した野菜のクッキングを行い、実体験に基づく“いろいろな食材に触れる・味わう機会”をもつよう取り組む。 ・味覚過敏で食感や味に敏感で、白いものしか口にしないこどもも増えているため、特性を踏まえた上で、好き嫌いがいい子どもが良いというような一律な捉え方は、見直すようにしていった。
子育て支援（在園児および地域）	・保護者の育児相談を随時行うようにし、悩みごとや困りごとをもつ保護者との面談を園長が行っていった。しかし、悩みごとを相談し辛い保護者もいるので、日頃よりコミュニケーションを取りながら相談しやすい環境を作る必要がある。 ・地域支援センターとして地域の親子さんがたくさん利用され「マイ子育てひろば」の役割をしっかりと担っている。地域の親子のよりどころとなりつつある。
インクルーシブ教育保育	・様々な特性をもつ子どもの数が、年々増えてきている。 障害ではなく、特性と捉えて一人一人の子どもの困りごとは何なのかを、しっかり見極めて保育・教育していくことを一番大切に行っている。「みんなと一緒に楽しい。でも一緒になくてもいい」個性が輝く保育教育を意識している。

職員の資質の向上	・アドバイザー研修で具体的な指導を受けたことはすぐに実践している。うまくいくことも、予想と違っていたりすることもあるが、職員同士で報告をし合い、アドバイスをしながら積極的に進めていこうとする姿がある。保育教諭自身が“こうあらねばならない”という考えで進めていこうとすることもあるが、“のびのび”“しなやか”を意識した時に、子どものどのような姿を見たいのか考え、目の前の子ども達を見るようになってきた。 ・教育保育環境ガイドラインを利用しながら、保育・教育の質の点検にも取り組みつつある。
幼保こ小中の連携・接続	・桜井谷小学校の校庭で運動会を行うため、運動会前は夕方に校庭を使わせてもらった。小学生と一緒にリレーをしたり、担任の先生に年長児の組体操を見てもらったりする等の交流をした。 ・近くの民間園（みどりっこ保育園）の園長と連絡を取り合い、警報発令時の対応の仕方などお互いの園の悩みを相談し合える関係になってきている。運動会や公開保育も見に来ていただき、取り組みの感想や意見もいただいている。
評議員会	・評議委員会では中学校の校長先生にもご参加いただき、中学校の現状を知る機会となった。 ・園の取り組みを知っていただくことで、第三者的にご意見をいただくことが出来た。
その他	・絵本の取り組みを引き続き行っていることで、絵本の貸し出しが盛んになっている。送迎時に親子で絵本を楽しんでもらえるように低いイスを設置し、親子での絵本タイムを楽しんでもらえている。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
・主体的な遊びや活動	子ども達自身がワクワクし、主体的に遊びを作り出す環境づくりなど継続した取り組みを必要とする。
・コミュニケーション力の向上	絵本の読み聞かせを通して、コミュニケーション力やイメージ力を育み、非認知能力を向上させる。 また“いまどんな きもち”のイラストや絵カードを使用する等、まず自分の気持ちを理解できるように、そして友達の気持ちにも気づけるようになる力をつける。

令和7年（2025年）3月31日

豊中市立 桜井谷こども園

園長名 小谷 順子